

建置沿革

〔日本國郡沿革考〕東山道信濃 古作科野古事記、養老五年六月、割信濃國置諏方國、天平三年三月、廢併信濃國、上國管十郡、千六百十五村、

佐久ハシナ百八十八村 諏訪ハシナ百三十五村 古洲ハシナ羽國ハシナ見古事記、國造記、作須羽、後併信濃國、養老五年、

喜式ハシナ等作諏方、正徳二年、割信濃國置諏方國、此時蓋再置也、天平三年、廢併信濃國、後爲郡、延年、

今宜書諏訪、伊那ハシナ二百八十四村、正徳二年四月、筑摩ハシナ二百三十三村、小縣ハシナ百二

高井ハシナ百五十一村 更科ハシナ七十三村、延喜式等作更級、正安曇ハシナ百八十村、水内ハシナ二百十四村、

〔日本地誌提要〕二十六沿革 古へ國府ヲ筑摩郡ニ置今ノ松本治承中、源義仲、木曾ヨリ起リ、京

師ニ入リ、平氏ヲ西海ニ逐ヒ、征夷將軍ニ任ズ、鎌府ノ時、小笠原長清守護ニ補シ、子孫世襲ス、玄

孫長氏ニ至テ、州守ヲ兼ヌ、元弘ノ末、其孫貞宗兵ヲ起シテ、勤王後、叛テ足利尊氏ニ降リ、守護タ

ル故ノ如ク、深志城ニ居今ノ松本永享中、小笠原氏漸ク衰ヘ、村上埴科郡諏訪諏訪郡木曾筑摩郡

ノ裔、諸氏各一隅ニ據ル、天文ノ末、武田晴信侵擾スル連年、小笠原及村上諏訪二氏ヲ滅シ、木曾

義昌ヲ降シ、終ニ全州ヲ取ル、時ニ上杉輝虎屢兵ヲ川中島ニ出シテ地ヲ争ヒ、遂ニ飯山ニ城テ

其近境ヲ取ル、天正十年、織田信長、武田氏ヲ滅シ、海津後松代ヲ改ム、森長一ニ飯田ヲ毛利秀頼ニ賜

フ、既ニシテ信長弒セラレ、武田ノ故將真田昌幸上田ニ據リ、獨リ上杉氏ニ屬ス、長一等西上シ、

州内擾亂ス、徳川氏北條氏下地ヲ争ヒ、終ニ本州ヲ取ル、舊族小笠原貞慶松本保科正直高遠皆故地

ヲ復シ、義昌昌幸等ト共ニ徳川氏ノ節度ヲ受、昌幸尋テ豊臣秀吉ニ屬ス、十八年、徳川氏關東ニ

遷ル、保科木曾二氏 秀吉貞慶ノ地ヲ收メテ、森忠政長一弟ヲ松代ニ、石川數正ヲ松本ニ封ジ、飯田

高遠ヲ京極高知ニ、小諸ヲ仙石秀久ニ賜フ、徳川氏ノ初、松本初小笠原秀政松代初松平忠輝上

田初真田信之高島諏訪高遠初保科正直飯田初脇坂安元須坂堀直飯山初皆川廣照小諸康重

九藩トス、後ニ内藤正勝ヲ岩村田ニ封ジ、三河與殿藩松平徒テ田野口ニ治シ、凡テ十一藩、王政